Course number	U-LAS00 10037 OJ34　U-LAS00 10037 OJ17		
Course title (and course title in English)	統合型複合科目（人社群p）：実践的・人文社会科学入門　HP01 Integrated Liberal Arts and Science with Small Group Seminars (Humanities and Social Sciences p) :Introduction to Pragmatic Humanities and Social Sciences HP01	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Human and Environmental Studies Associate Professor,SHIBAYAMA KEITA Graduate School of Engineering Professor,FUJII SATOSHI

Group	Humanities and Social Sciences	Field(Classification)	Philosophy(Foundations)

Language of instruction	Japanese	Old group	Group A	Number of credits	4

Number of weekly time blocks	2	Class style	Lecture + Seminar (Face-to-face course)	Year/semesters	2026・First semester

Days and periods	Mon.2・Wed.5	Target year	All students	Eligible students	For all majors

[Overview and purpose of the course]

哲学や文学等の「人間の精神や文化を主な研究対象とする学問」たる人文学や、社会学、経済学、政治学、社会心理学等の「人間集団や社会のあり方を主な研究対象とする学問」たる社会科学は、そのそもそもの定義からして「実践的」な知的営為である。人間の精神や文化、人間集団や社会はすべて実践する主体だからである。

　しかしながら、人文学および社会科学（あわせて人文社会科学）は、近代においてその活動を拡大するにしたがい、半ば必然的に細分化が進行してきた。また、「政策手段」をめぐる科学的知見と、「目的設定」に関わる価値や思想の議論が分離しているために、その実践性が著しく損なわれている。

　そこで本科目では、こうした実情を憂い、「認識的実践」及び「実践的認識」を旨とする教育・研究・実践を共同で推進している教員（人間・環境学研究科、経営管理大学院、工学研究科に所属）が集まり、政策との関わりを視野に入れながら、人文社会科学の基礎概念を包括的・有機的に講義する。また本科目では、講義内容を踏まえた実践的テーマの演習（ゼミ）を同時進行で実施することを通して、認識的実践及び実践的認識に関わる見識および教養の涵養を目指す。

○統合型複合科目分類　【文・文】
　主たる課題について文系分野の要素が強く、副たる課題についても文系分野の要素が強いと考えられるもの

[Course objectives]

哲学や文学等の「人間の精神や文化を主な研究対象とする学問」たる人文学や、社会学、経済学、政治学、社会心理学等の「社会科学は人間集団や社会のあり方を主な研究対象とする学問」たる社会科学についての横断的教養を身につけ、その教養を活用して、政治・経済的、社会・文化的諸問題を適切に解釈し、それに対処する上で必要となる実践の方向性を見いだす基礎的能力を身につけること。

[Course schedule and contents)]

（この授業では、講義と少人数演習を併せて学びます。講義のみ、少人数演習のみの出席では授業の到達目標に達しません。なお、このシラバスでは共通の講義部分と、少人数演習・A班「社会経済システム論」（担当：柴山）の授業計画と内容を記します）

Continue to 統合型複合科目（人社群p）：実践的・人文社会科学入門　HP01(2)↓↓↓

◆講義
（全14回+フィードバック）　月曜2限・共南21
・総論：「認識」と「実践」（藤井・柴山・浜崎・川端）
・「民主主義」と「権威主義」（藤井）
・「保守主義」と「リベラリズム」（藤井）
・「緊縮財政」と「積極財政」（藤井）
・「現代貨幣理論（MMT）」（藤井）
・「グローバリズム」と「ナショナリズム」(1)(2)（柴山）
・「アベノミクス」とは何だったのか？　（藤井・柴山）
・近代小説とは何か　「個人」の運命とは？（浜崎）
・近代批評とは何か　「個人」の限界とは？（浜崎）
・『日本』とは何か　　私たちの共同性を見定める（浜崎）
・「国民国家」と「近代文学」　（藤井・浜崎）
・「現実主義」と「理想主義」と「構成主義」（国際関係）（川端）
・「政教分離」と「祭政一致」（川端）
・「テクノロジー」と「思想」（藤井・川端）
・フィードバック

Key Word: 批判的思考，アカデミックリテラシー，リサーチリテラシー

◆少人数演習
A班「社会経済システム論」（担当：柴山）　水曜5限・総人1306
　現代はグローバル化の時代であると同時に、国家間の対立や緊張が高まる時代でもある。なぜ経済的な結びつきが深まっているにもかかわらず、戦争の危険が高まってしまうのか。なぜポピュリズムと呼ばれる過激な政治が現れるのか。この授業では、現代のグローバル化した世界で生じている問題を取り上げて、講義による解説と、参加者による報告・討議を行う。これから社会科学を学ぶ学生に、現代世界の直面する課題への関心を広げてもらうのが、この講義の目的となる。
　具体的には，グローバル化する現代世界への理解と関心を深めること、およびそれらの問題に関する基礎知識を身につけることが目標とする。
　（授業計画）
第1回～2回　　イントロダクション
第3回～第7回　講義は、以下のトピックを考えている（必要に応じて参考文献のコピーを配布する。）
　・グローバル化の歴史と現在
　・自由民主主義の後退
　・ナショナリズムの再燃
　・新興国の成長と「圧縮された近代」
　・「文明の衝突」の現在
第8回～第14回　参加者各自の関心に基づく報告と討議。各自の報告テーマについては、授業中に相談して決定する。
第15回　フィードバック
講義はゼミ形式で行われるため、積極的な発言が求められる。欠席がちの者は、単位を取得できない。

（注意）A班の少人数演習は総合人間学部科目「基礎演習：社会経済システム論」と同じ教室で行われます。総合人間学部科目としての認定を希望する者は、総合人間学部科目として履修してください（「統合科学・少人数演習付：実践的・人文社会科学入門」と同時に履修することはできません。後から単位の読み替えもできません）

Continue to 統合型複合科目（人社群p）：実践的・人文社会科学入門 HP01(3)↓↓↓

統合型複合科目（人社群p）：実践的・人文社会科学入門 HP01(3)

[Course requirements]

特になし。特別な予備知識は必要とせず，文系・理系を問わず全学部生向けに授業を行う。

[Evaluation methods and policy]

（14回の授業での平常点（出席と参加の状況など）と最終発表で評価を行う。各評価項目の割合の詳細は，初回の授業で説明する。フィードバック授業は評価の対象外である。

[Textbooks]

Not fixed

[References, etc.]

（References, etc.）

Introduced during class

教科書，授業資料の要点を予習・復習する。

[Study outside of class (preparation and review)]

教科書，授業資料の要点を予習・復習する。

[Other information (office hours, etc.)]

授業で学んだことを，大学での学び全体に活かして実践して，振り返ることを期待する。

[Essential courses]